MA1108-C

J Z

デジタルカメラ

EX-TR100

取扱説明書
（保証書付き）

はじめにご覧ください（基本的な操作）

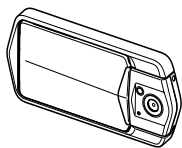
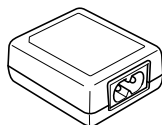
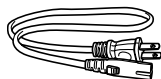
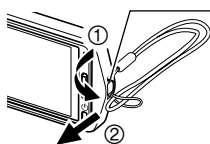
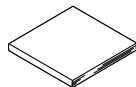
⇒ 11ページ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

ユーザー登録のおすすめ
ユーザー登録していただくと、サポート情報の配信などをさせていただきます。下記サイトから登録手続きを行ってください。
http://casio.jp/reg/dc/

K1302FCM1PKC

そろっていますか

箱を開けたら、以下のものがすべてそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、Photo Transport、Virtual Painter 5 LE for CASIO、CASIO Connection powered by Eye-Fiの使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

■ よりよい撮影のための設定　61

■ 静止画や動画を再生する　72

■ 再生時のその他の機能（再生機能）　81

■ プリント（印刷）する　84

■ パソコンを利用する　86

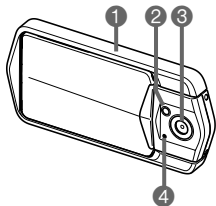
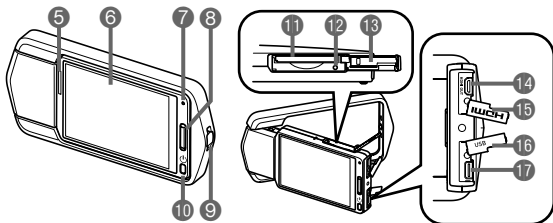
その他の設定について 115

液晶モニターの表示を設定する 123

付録 125

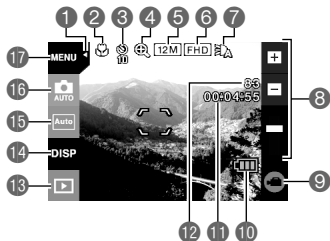
各部の名称

各部の説明が記載されている主なページを（　）内に示します。

前面　　　　**後面**

❶フレーム（13ページ）
❷LEDライト（63ページ）
❸レンズ
❹マイク（16、53ページ）
❺スピーカー
❻液晶モニター（8、123ページ）
❼後面ランプ（21、24、30、33ページ）
❽シャッター（33ページ）
❾ストラップ取り付け部（2ページ）
❿【⏻】（電源）（30ページ）
⓫メモリーカード挿入部（27、135ページ）
⓬リセットボタン（140ページ）
⓭メモリーカード挿入部カバー（27ページ）
⓮【HDMI OUT】HDMI output（マイクロ）端子（79ページ）
⓯HDMI端子カバー（79ページ）
⓰USB端子カバー（20、22、89、105ページ）
⓱【USB】端子（20、23、90、100、105ページ）

液晶モニターの表示内容

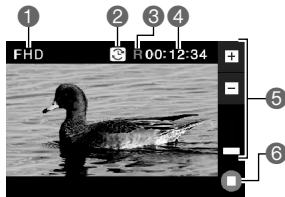
液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

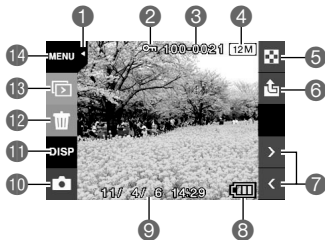
- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

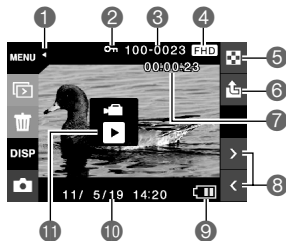
■ 静止画撮影時

❶しおり(30ページ)
❷フォーカス方式(70ページ)
❸セルフタイマー(63ページ)
❹デジタルズーム(48ページ)
❺静止画サイズ(64ページ)
❻動画画質(51、66ページ)
❼LEDライト(63ページ)
❽ズームバー(32、48ページ)
❾"🎥"(ムービー)アイコン(33、52ページ)
❿電池残量表示(25ページ)
⓫動画撮影可能時間(32ページ)
⓬静止画撮影可能枚数(32ページ)
⓭再生モード切替アイコン(30ページ)
⓮情報表示切替アイコン(124ページ)
⓯表示方向アイコン(123ページ)
⓰撮影モードアイコン(41ページ)
⓱メニューアイコン(61ページ)

参考

- ⓫動画撮影可能時間と⓬静止画撮影可能枚数は、カメラが以下の状態の場合、液晶モニターの表示が「情報表示あり」(124ページ)に設定されていても表示されません。
  - 縦表示のとき
  - 液晶モニターとレンズが同じ向きにあるとき

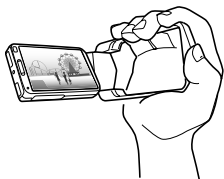
■ 動画撮影時

❶動画画質(51、66ページ)
❷動画の撮影時間切替アイコン(52ページ)
❸動画の残り撮影時間表示アイコン(52ページ)
❹動画の撮影時間／動画の残り撮影時間(52、147ページ)
❺ズームバー(32、48ページ)
❻“◘”(ムービー停止)アイコン(33、52ページ)

■ 静止画再生時

❶しおり(30ページ)
❷プロテクト表示(82ページ)
❸フォルダ名／ファイル名(112ページ)
❹静止画サイズ(64ページ)
❺一覧表示アイコン(77ページ)
❻アップロードアイコン(102ページ)
❼画像送りアイコン(35、72ページ)
❽電池残量表示(25ページ)
❾日付／時刻(26、118ページ)
❿撮影モード切替アイコン(30ページ)
⓫情報表示切替アイコン(124ページ)
⓬消去アイコン(36ページ)
⓭スライドショーアイコン(77ページ)
⓮メニューアイコン(61ページ)

■ 動画再生時

❶しおり(30ページ)
❷プロテクト表示(82ページ)
❸フォルダ名／ファイル名(112ページ)
❹動画画質(51、66ページ)
❺一覧表示アイコン(77ページ)
❻アップロードアイコン(102ページ)
❼動画の撮影時間(72ページ)
❽画像送りアイコン(35、72ページ)
❾電池残量表示(25ページ)
❿日付／時刻(26、118ページ)
⓫"▶"(動画再生)アイコン(72ページ)

はじめにご覧ください(基本的な操作)

このカメラでできること

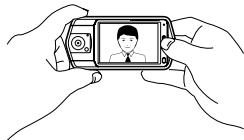
このカメラには、撮影に便利なさまざまな機能が搭載されていますが、ここでは代表的な5つの機能を紹介します。

さまざまなスタイルで撮影

カメラのフレームを開いたり、液晶モニターを回転させたりして、長時間の動画撮影や自分撮りが簡単にできます。

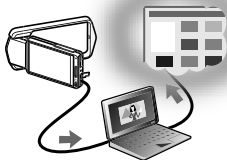
詳しくはこちら13ページ

タッチパネルで簡単操作

本機の液晶モニターはタッチパネルになっていますので、直感的に操作できます。

詳しくはこちら17ページ

自分撮りが簡単に

液晶モニターを回転させ、レンズと同じ向きにできます。液晶モニターに表示される画像を確認しながら、簡単に自分撮りができます。

詳しくはこちら50ページ

撮った画像を簡単アップロード

カメラに内蔵されているソフトCASIO Connection powered by Eye-Fiをパソコンにインストールして、撮影した画像を簡単にオンラインサービスにアップロードできます。

詳しくはこちら100ページ

HDRアート

露出の異なる連写画像を合成し、高精度な画像解析をもとに芸術的な作品を創り出すことができます。

詳しくはこちら42ページ

目的に応じてカメラのスタイルを変える

本機は、フレームを開閉させたり液晶モニター部を回転させたりすることができる構造になっています。目的に応じたスタイルで撮影してください。

重要

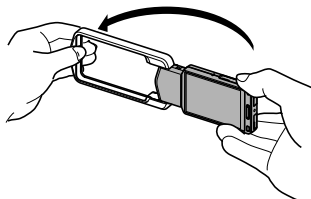
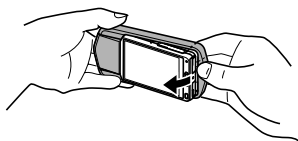
- 液晶モニターを強く押さないでください。液晶モニターが破損することがあります。
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮されませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

カメラのフレームを開閉する

本機のフレームは、360度回転させることができます。

1. 液晶モニターを手前にして、フレームを持つ

2. 液晶モニター部の後面を押し出す

3. 液晶モニターの側面を持ち、フレームを開く

重要

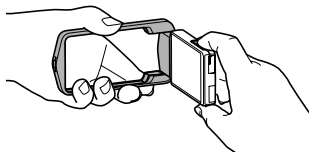
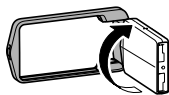
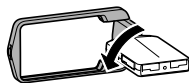
- 液晶モニター部を回転させた状態ではフレームの開閉はできません。フレームが液晶モニター部に当たって故障の原因となります。

液晶モニターを回転させる

液晶モニターを回転できます。

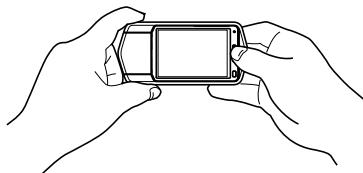
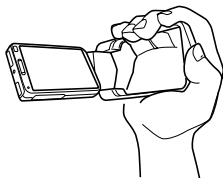
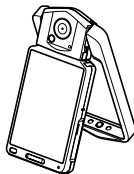
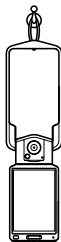
参考

- 液晶モニター部は、下の図のように持った状態で時計回りに180度、反時計回りに90度回転できます。
- 液晶モニター部は、フレームを閉じた状態でも回転できます。

1. カメラを図のようにして持つ

2. フレームをしっかりと持ち、液晶モニター部をゆっくり回す

時計回りに180度

反時計回りに90度

こんな使い方ができます

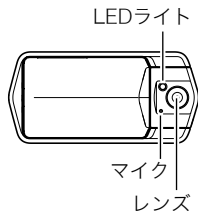
フレームを開いたり、液晶モニターを回転させたりして、さまざまなスタイルで撮影できます。

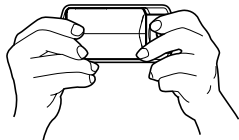
通常撮影	動画撮影
液晶モニターをレンズと反対側にして使用します。	フレームを90度開いて、フレームを持ちます。本機を逆さまにして使用することもできます。
立てて撮影／自分撮り	**壁掛け撮影**
液晶モニター部をレンズと同じ向きにして、フレームを30度ほど開いて立てます。	液晶モニターを180度回転、フレームを180度開いて壁に掛けます。

参考

- 撮影するときは、シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。
- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。

LEDライト

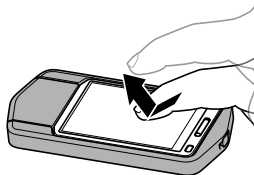
マイク

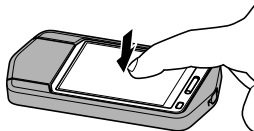
レンズ

重要

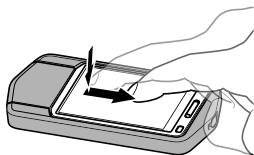
- LEDライトに指がかかったり、近づきすぎたりしないでください。撮影時、影が写りこんだりする原因になります。

タッチパネルを使う

本機の液晶モニターはタッチパネルになっています。指を使用して、さまざまな操作ができます。

タッチ

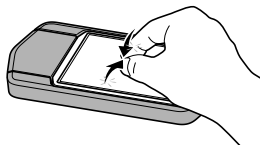
画面に触れて離します。
アイコンやメニュー項目を選んだり、設定したりします。

タッチし続ける

画面を触ったままにします。
画像を早送りしたり、動画を連続してコマ送りしたりします。

ドラッグ

画面を触ったまま、上下左右に動かします。
ドラッグしたところまで画面を移動したり、前後の画像を表示したりします。

2本の指でタッチしながら広げる

画面を2本の指で触り、触ったまま指を広げます。
画像を拡大して表示します。

2本の指でタッチしながら狭める

画面を2本の指で触り、触ったまま指を狭めます。
画像を縮小して表示します。

重要

- 先がとがったものや硬いもので押さないでください。液晶モニターが破損することがあります。
- このカメラのタッチパネルは圧力を感知するタイプです。パネルは確実にタッチしてください。

参考

- 市販の液晶保護シートを貼ると、操作が感知されにくくなります。
- タッチしてもアイコンやメニュー項目が選べないときは、タッチ位置を調整してください(120ページ)。

箱を開けたら、電池を充電する

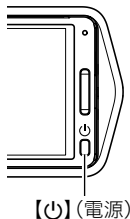
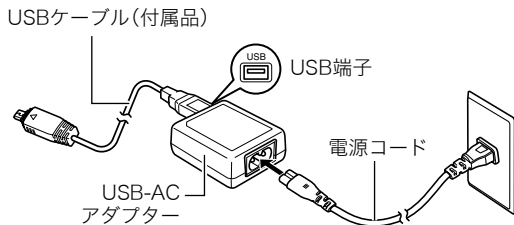
本機には、リチウムイオン充電池が内蔵されています。お買い上げ後は、電池は充電されていませんので、必ず充電してからご使用ください。

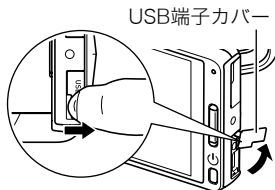
電池は、次の2種類の方法で充電できます。

- USB-ACアダプターを使って充電する
- パソコンのUSB端子から充電する

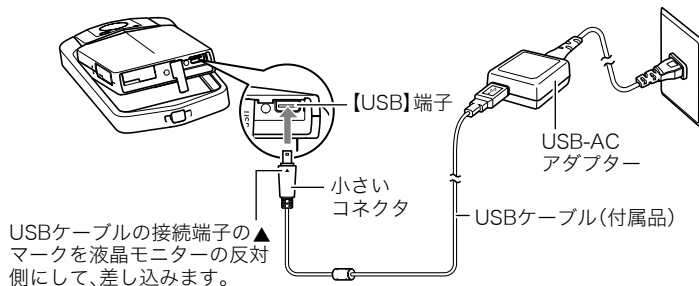
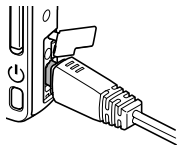
■ USB-ACアダプターで充電する

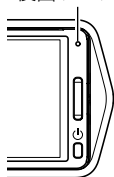
1. カメラの電源を切る

カメラの電源が入っているときは、必ず【⏻】（電源）を押して電源を切ってください。

2. 付属のUSBケーブルをUSB-ACアダプターに接続した後、USB-ACアダプターを家庭用コンセントに接続する

3. 液晶モニター部の後面を手前に押して、フレームを開く(13ページ)

4. USB端子カバーのくぼみに爪を掛けて、矢印の方向に開ける

5. USBケーブルをカメラに接続する

後面ランプが赤色に点灯し、充電を開始します。
充電が完了すると、後面ランプが消灯します。

- 電池を使い切ってからすぐに充電した場合は、約2時間10分でフル充電されます。
- 長期間電池を使わなかった場合や周囲の温度によっては、充電時間が延びることがあります。充電時間が約6時間を越えるとタイマーが働き、フル充電でない場合でも充電が停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。また、電池の未使用期間がさらに長期化した場合は約45分で充電が停止し、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、一度USBケーブルをカメラから抜いて、もう一度差し込んで充電しなおしてください。

- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／USB-ACアダプターの異常／電池の異常（129ページ）／タイマーによる充電終了
消灯	充電完了

6. 充電が終わったらカメラからUSBケーブルを抜き、家庭用コンセントからUSB-ACアダプターを抜く

■ パソコンのUSB端子から充電する

本機をパソコンに直接接続して、充電することができます。

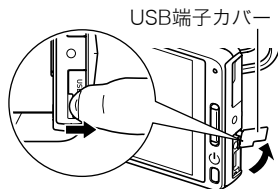
- パソコンとの接続環境によっては、パソコンから充電できない場合があります。そのような場合は、USB-ACアダプターでの充電をおすすめします。

重要

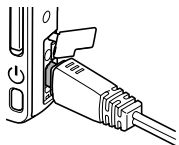
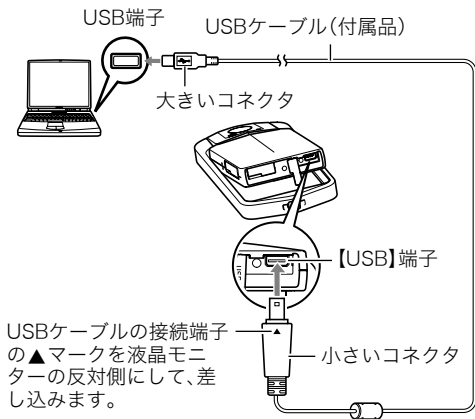
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

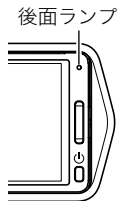
1. 【⏻】（電源）を押して、カメラの電源を切る

2. 液晶モニター部の後面を手前に押して、フレームを開く（13ページ）

3. USB端子カバーのくぼみに爪を掛けて、矢印の方向に開く

4. **すでに電源の入っているパソコンのUSB端子にカメラを接続する**

後面ランプが赤色に点灯します。しばらくすると、カメラの電源が自動的に入り、後面ランプがオレンジ色に点灯して充電を開始します。
充電が完了すると、後面ランプが緑色に点灯します。ただし、パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、カメラの電源が切れた状態のまま充電のみを開始し、後面ランプが赤色に点灯します。この状態のまま充電が完了すると、後面ランプが消灯します。

- 電池を使い切ってからすぐに充電した場合は、約4時間20分でフル充電されます。
- 長期間電池を使わなかった場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びることがあります。充電時間が約 6 時間を越えるとタイマーが働き、フル充電でない場合でも充電が停止します。また、電池の未使用期間がさらに長期化した場合は30分〜45分で充電が停止し、後面ランプが赤く点滅または消灯することがあります。その場合は、付属のUSB-ACアダプターで充電してください。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

後面ランプの動作

動作	内容
オレンジ点灯	充電中
赤点灯	充電中(このときパソコンとのデータ転送はできません。)
赤点滅	周辺温度の異常／電池の異常(129ページ)／ タイマーによる充電終了
緑点灯	充電完了／充電停止

5. 充電が終わったら、カメラからUSBケーブルを抜き、パソコンからUSBケーブルを抜く

参考

- パソコンのUSB端子から充電中にカメラの電源を切っても、充電を続けます。ただし、後面ランプの動作は、21ページの「後面ランプの動作」と同じ動作に変わります。

重要

- パソコンが休止状態のときは充電できません。
- 充電を開始してからすぐに、またはしばらく経ってから、充電エラーが起こる場合があります。充電エラーが起こると、後面ランプが赤色に点滅します。
- パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、カメラの電源が切れた状態のまま充電のみを開始しますが、カメラの電源を入れると充電が停止し、パソコンとのUSB通信状態に移行します。このとき、後面ランプが緑色に点灯します。

その他充電についてのご注意

- カメラの使用直後は電池が熱くなり、十分に充電されない場合があります。カメラの電源を切ったまま常温でしばらく放置し、電池が冷えるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の残量や使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプターは本機以外には使用しないでください。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い	←――――→					少ない
電池残量表示		→		→		→	
残量表示の色	水色	→	黄色	→	赤色	→	赤色

“ ”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“ ”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が消耗している状態でカメラを約30日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(118ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては150ページをご覧ください。

最初に電源を入れたら時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは

時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

【⏻】(電源)

時間表示切替

1. 【⏻】(電源)を押して電源を入れる

2. 変更したい値(年、月、日、時、分)をタッチする

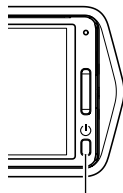
3. “▲”“▼”をタッチして、日時を合わせる

- “▲”“▼”をタッチし続けると、早送りできます。
- 12時間/24時間表示を切り替えるには、時間表示切替アイコンをタッチします。

4. 日付/時刻合わせが終了したら、“OK”をタッチする

5. “オート”または“プレミアムオート”のどちらかをタッチして、オート撮影モードを選ぶ

6. “決定”をタッチする

- オート撮影モードは、設定が終了したあとで切り替えることができます。詳しくは31ページをご覧ください。

日付/時刻を間違って設定した場合、上記の手順では直せません。118ページをご覧になり、設定し直してください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください（本機にメモリーカードは付属していません）。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

- 保存できる枚数については146ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

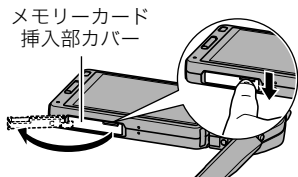
– SDメモリーカード
– SDHCメモリーカード
– SDXCメモリーカード

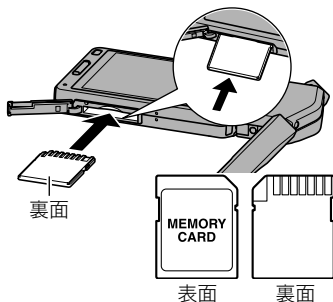
- SD規格に準拠したSDカードをお使いください。
- 本機では、Eye-Fiカードを使用することができます。

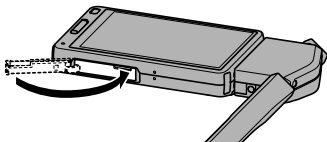
当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）をご覧いただくか、本書巻末記載の「お客様相談窓口（157ページ）」にお問い合わせください。

メモリーカードを入れる

1. **【⏻】（電源）を押して電源を切り、本機のフレームを開く（13ページ）**

2. **メモリーカード挿入部カバーのくぼみに爪を掛けて、カバーを矢印の方向に開ける**

3. メモリーカードを入れる

メモリーカードの裏面を液晶モニター側にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。

4. メモリーカード挿入部カバーを閉じ、フレームを元の位置に戻す

- メモリーカードの交換のしかたについては、135ページを参照してください。

重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(27ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切って、「修理に関するお問い合わせ窓口(157ページ)」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

新しいメモリーカードを初めて使用するときは、カメラでフォーマットする必要があります。

1. カメラにメモリーカードを入れる(27ページ)

---

2. 電源を入れて“MENU”をタッチする

- “MENU”が表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください(40ページ)。

---

3. 上下にドラッグ(17ページ)して“セットアップ”を選び、タッチする

---

4. “フォーマット”をタッチする

---

5. “フォーマット”をタッチし、“はい”をタッチする

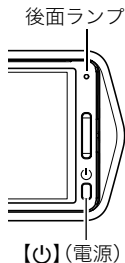
メモリーカードのフォーマットが開始されます。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは普段行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- Eye-Fiカードをフォーマットするときは、必要に応じてカード内のデータのバックアップを取ってください。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【⏻】(電源)を押します。
後面ランプが緑色に点灯して電源が入り、撮影モードになります。

撮影モードと再生モードを切り替える

再生モードにする	撮影モードのときに"▶"(再生)をタッチ、または"▶"(しおり)をタッチして表示される"▶"(再生)をタッチする
撮影モードにする	再生モードのときに"▶"(しおり)をタッチして表示される"📷"(撮影)をタッチする

■ 電源を切る

【⏻】(電源)を押します。

参考

- 電池の消耗を抑えるため、5分間操作しないと自動的に電源が切れます(オートパワーオフ機能)。

静止画を撮影する

本機には、目的に応じた撮影モード(41ページ)が複数搭載されており、撮影方法もさまざまです。ここでは、オート撮影モードを使用した一般的な撮影方法を説明します。

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

オート	一般的なオート撮影モードです。
プレミアムオート	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します。 • オートよりも、電池寿命はやや短くなります。

1. 【⏻】(電源)を押して、電源を入れる

2. 上から2番目(縦表示の場合は、右から2番目)のアイコン(撮影モード)をタッチする

撮影モードのアイコンが表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。

撮影モードアイコン

3. “オート”または“プレミアムオート”をタッチして、オート撮影モードを設定する

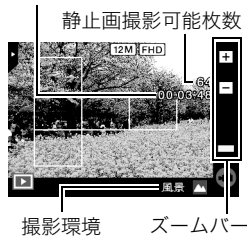
撮影する

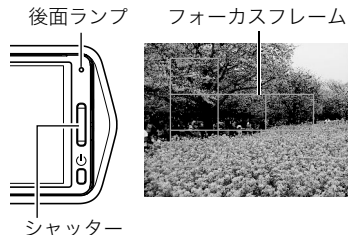
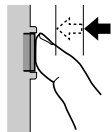
1. カメラを被写体に向ける

プレミアムオートで撮影しようとすると、カメラが検出した撮影環境が画面右下に表示されます。

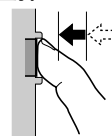
- ズームバーの上にある“＋”“－”をタッチして、ズームの倍率を変更できます(48ページ)。

－(広角)

＋(望遠)

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントが合うと“ピピッ”と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。

半押し 軽く押して止まるところまで

ピピッ(ピントが合います)

シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

動画を撮影するには

“ ”(ムービー)をタッチすると動画の撮影が開始されます。
“ ”(ムービー停止)をタッチすると終了します。
詳しくは51ページをご覧ください。

参考

- 画面をタッチして、静止画を撮影することもできます（62ページ）。
- 撮影する静止画の画像サイズを設定することができます。詳しくは64ページをご覧ください。

■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません（被写体との距離が近すぎるときなど）。もう一度カメラを被写体に向けて、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック（71ページ）を使います。

■ プレミアムオートで撮影するとき

- シャッター速度、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
  - シャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。
  - 画面の中でピントを合わせるべき場所をカメラが自動的に判断し、そこへピントを合わせます。
  - 人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。
- プレミアムオートで撮影すると、“プレミアムオート高画質化の処理中です　しばらくお待ちください”と表示される場合があります。もしも画像処理時間が気になる場合は、オートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオートでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、オートに切り替えて撮影してください。

撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については72ページをご覧ください。

1. "▶"(再生)をタッチして、再生モードにする

記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。

- 表示されている静止画についての情報も表示されます(9ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(124ページ)。
- 液晶モニターをタッチして、画像を拡大して表示できます(78ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。

"▶"(再生)

2. "<"">"をタッチ、または画像を左右にドラッグして、前後の静止画に切り替える

- "<"">"をタッチし続けると、画像を早送りできます。

参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを押すと、撮影モードに切り替わります。

撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。

1ファイルずつ消去する

1. 再生モードにして“<”“>”で消去したいファイルを表示させる

2. “🗑”をタッチする

- “🗑”が表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。

3. “1ファイル”をタッチする

選んだ画像が消去されます。

すべてのファイルを消去する

1. 再生モードにする

2. “🗑”をタッチする

- “🗑”が表示されていない場合は、“▶”(しおり)をタッチして表示させてください。

3. “全ファイル”をタッチする

4. “消去”をタッチする

すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出たりすることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した撮影モード（41ページ）で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- CMOSの特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、本機ではシャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間は操作しないでください。
- CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

オートフォーカスの制限事項

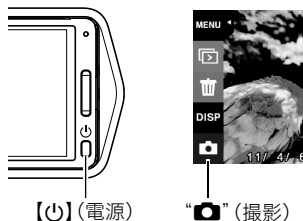
- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック（71ページ）で撮影してみてください。

撮影する(応用)

本機では、液晶モニターをタッチして、撮影に関しての設定を変更することができます。

■ 撮影項目を設定する

1. 【⏻】(電源)を押して電源を入れ、撮影モードにする

- 再生モードの場合は、"📷"(撮影)をタッチして、撮影モードに切り替えてください。

2. 設定したい項目をタッチする

- 左側のアイコンが表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。

❶しおり(30ページ)
❷メニュー(61ページ)※
❸撮影モード(41ページ)
❹表示方向(123ページ)
❺情報表示切替(124ページ)
❻再生モード切替(30ページ)
❼ズーム(48ページ)
❽ムービー(52ページ)

※撮影モードによって使用できないメニュー項目があります。

撮影モードを設定する

本機には、目的に応じたさまざまな撮影モードがあります。

1. **撮影モードにして、撮影モードアイコン(31ページ)をタッチする**

- 撮影モードアイコンが表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。

撮影モードアイコン

2. **使用したい撮影モードのアイコンをタッチする**

選んだ撮影モードに設定されます。

オート	一般的なオート撮影モードです(31ページ)。
プレミアムオート	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、オートよりも高画質で撮影します(31ページ)。
BS **ベストショット**	あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります(54ページ)。
HDR ART **HDRアート**	デジタル処理で芸術的な写真を撮影することができます(42ページ)。
スライドパノラマ	カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、その画像をつなぎ合わせて、パノラマ画像を自動的に作成することができます(44ページ)。
モーションシャッター	被写体の動きを感知すると、セルフタイマーが作動するように設定することができます(47ページ)。

デジタル処理で芸術的な写真を撮影する(HDRアート)

HDR撮影(57ページ)を応用した従来の写真表現を超えた作品が作れます。

通常撮影時の画像

HDRアートで撮影した画像

1. 撮影モードにして、撮影モードアイコン(31ページ)をタッチする

2. “HDR ART”(HDRアート)をタッチする

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- 本機を平らなところに置くなどして、カメラを固定させて撮影すると、より大きな効果が得られやすくなります。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

■ アート効果のレベルを調整する

アート効果のかかり具合を3段階で調整できます。

1. 撮影モードを“HDRアート”にする

2. “ART +2”をタッチする

3. 設定したいレベルをタッチする

- 0(off)～+3(strong)

4. “OK”をタッチする

パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、その画像をつなぎ合わせて、レンズの広角度を超えたパノラマ画像を作成することができます。

- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
  スライド方向が右／左方向の場合:最大11520×1080 pixels
  スライド方向が上／下方向の場合:最大1920×7296 pixels
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。

1. 撮影モードにして、撮影モードアイコン(31ページ)をタッチする

---

2. “ ”(スライドパノラマ)をタッチする

---

3. スライドしたい方向(カメラを動かす方向)のアイコンをタッチする

スライド方向は、“ → ”(右)／“ ← ”(左)／“ ↑ ”(上)／“ ↓ ”(下)の4種類があります。

---

4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

5. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端（スライド方向が右の場合は右端）に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。カメラを動かすのを止めたあと、“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示されてから、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

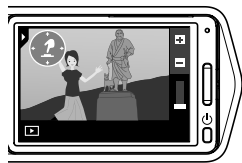
スライドカーソル

参考

- 以下の場合は、スライドパノラマ撮影に適していません。
  - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
  - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
  - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
  - 主な被写体とカメラとの距離が近い
  - 動いている被写体
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
  - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
  - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。

- ちらつきのある光源(蛍光灯など)がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- 周囲が暗い状況で撮影した場合、画像がブレたり、撮影ができなかったりすることがあります。
- カメラは画面上の矢印の方向に同じ速度でゆっくり動かしてください。
- カメラは画面に表示される矢印に対して、できる限り平行に動かしてください。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- 連写撮影がうまくいかなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 動いている被写体を撮影したとき、うまく画像を合成できない場合があります。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に"切"になります。

被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす(モーションシャッター)

液晶モニターで設定した枠の中でカメラが動きを感知すると、自動でセルフタイマーのカウントが始まり撮影できます。離れた場所から手を振ったりしてセルフタイマーを操作することができますので、自分撮りをするときに便利です。

1. 撮影モードにして、撮影モードアイコン(31ページ)をタッチする

2. "✋"(モーションシャッター)をタッチする

3. "⊕"をドラッグして、動きが感知される位置を設定する

4. シャッターを全押しする

撮影待機状態になります。

5. カメラに向かって手を振るなどして、設定した枠内で動く

設定した枠内で被写体の動きを感知すると、セルフタイマーのカウントが始まります。セルフタイマーのカウントが0になると撮影され、撮影待機状態に戻ります。

参考

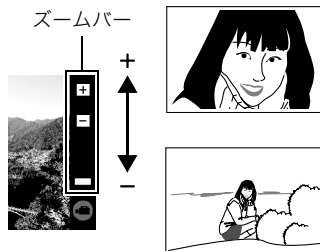
- モーションシャッターのセルフタイマーは、2秒で固定されています。
- モーションシャッターでの撮影を6回続けると、撮影待機状態は自動的に解除されます。
- 撮影待機状態のときにシャッターを押すと、撮影待機状態は解除されます。
- 枠の中の背景と被写体の色の差が少ないときや、被写体が離れすぎて小さいときは、正常に撮影できない場合があります。

ズーム撮影する

本機には、HDズーム、超解像ズーム、デジタルズームが搭載されています。ズームの倍率は画像サイズの設定によって異なります。

HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式
超解像ズーム	超解像技術により画質の劣化を抑える方式
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式

1. 撮影モードにして、画面のズームバーの上にある"＋""－"をタッチする

＋（望遠）：被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。
－（広角）：被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります。

2. シャッターを押して撮影する

参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため、本機を平らなところに置くなどして、カメラを固定させて撮影することをおすすめします。
- ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、" "（ムービー）をタッチする前にズーム操作をしてください。
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- デジタルズーム中は、" "が表示されます。

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は静止画サイズ(64ページ)、撮影モード(41ページ)の設定によって異なります。静止画サイズが小さいほど高倍率になります。

オート、プレミアムオート、モーションシャッター

静止画サイズ	解像度が低下しない倍率の境界	最大倍率
12M	1.5倍	4.0倍
3:2	1.5倍	4.0倍
5M	2.3倍	6.2倍
VGA	9.4倍	15.9倍

ベストショット(マルチ超解像ズーム)

静止画サイズ	解像度が低下しない倍率の境界	最大倍率
10M	2.0倍	4.0倍
5M	2.9倍	5.7倍
VGA	11.4倍	15.9倍

HDRアート、ベストショット(マルチ超解像ズーム除く)

静止画サイズ	解像度が低下しない倍率の境界	最大倍率
10M	1.0倍	4.0倍
5M	1.4倍	5.7倍
VGA	5.7倍	15.9倍

自分撮りをする

液晶モニターとレンズを同じ向きにすると、液晶モニターで自分の姿を確認しながらセルフタイマーで自分撮りができます。

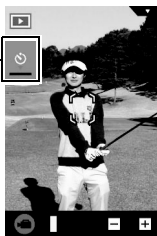
- 自分撮り専用のセルフタイマーを使用する場合は、撮影モードを“オート”または“プレミアムオート”にしてください。

1. 液晶モニター部をレンズ側に回転させて、液晶モニターをレンズと同じ向きにする(13ページ)

2. 撮影モードを“オート”または“プレミアムオート”にする(31ページ)

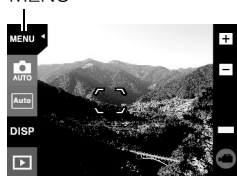
3. “⏲”(セルフタイマー)を下にドラッグして、セルフタイマーの時間を設定する

セルフタイマーのカウントが始まり、カウントが0になると撮影されます。

- セルフタイマーは2～10秒に設定できます。ドラッグする幅が長いほど、セルフタイマーの時間が長くなります。
- セルフタイマーを中止したい場合は、カウント中にセルフタイマーが表示されていない部分をタッチしてください。
- カウント中にシャッターを押すと、カウントを中止して撮影できます。

“⏲”(セルフタイマー)

動画を撮影する

ここでは、動画の撮影方法を説明します。

- 本機では、以下の撮影モードで動画を撮影できます。
  – オート
  – プレミアムオート
  – ベストショット(HS夜景)

1. 撮影モードにして"MENU"をタッチする

- "MENU"が表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。

2. 画面を上下にドラッグして"動画画質"を表示させて、タッチする

3. 設定したい画質をタッチする

動画画質	撮影速度(フレームレート)	画像サイズ(pixels)	説明
Full HD	30fps	1920×1080	高精細な動画(フルハイビジョン動画)を撮影できます。アスペクト比は16:9で撮影されます。
HD	30fps	1280×720	高品位な動画(ハイビジョン動画)を撮影できます。アスペクト比は16:9で撮影されます。
HS240	240fps	432×320	ハイスピード動画を撮影できます。 • 音声は録音されません。

4. "MENU"をタッチ、またはシャッターを押してメニュー画面を閉じる

5. “[ムービー]”（ムービー）をタッチする

撮影が開始されます。

- 動画画質を“Full HD”または“HD”に設定した場合、撮影中は音声（モノラル）も録音されます。
- 撮影中に“[残り時間]”をタッチすると、撮影可能な残り時間が“R”とともに表示されます。もう一度タッチすると、撮影時間に戻ります。
- 動画画質を“Full HD”または“HD”に設定した場合、撮影中にズームバーの上にある“＋”“－”をタッチしてズーム操作をすることができます。
- 動画のフォーカス方式（70ページ）を“マクロ”に設定してある場合は、動画撮影前にシャッターを半押しすることで、ピントを合わせ直すことができます。

6. “[停止]”（ムービー停止）をタッチして撮影を終了する

- 撮影可能な動画は、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。

動画撮影時の手ブレ軽減

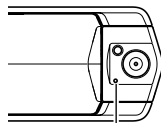
Full HD／HD動画では、手ブレを軽減しながら動画撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

ハイスピード動画で撮影時のご注意

- ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- ハイスピード動画では光源フリッカ（ちらつき）が横帯として写ることがあります。

重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- Full HD/HD動画では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などでマイクをふさがないでください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。

- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影を行うようにしてください。
- 内蔵メモリーを使用して動画を撮影するとコマ落ちします。動画を撮影する場合は内蔵メモリーではなく高速なメモリーカードをご使用ください。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。コマ落ちしている場合は、画面に表示されているムービーアイコンが黄色になります。動作確認済みのメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(http://casio.jp/dc/)内のサポートページにある「サポート情報」内の「他社製SDメモリーカード／マルチメディアカード動作確認一覧」をご覧ください。

参考

- 動画撮影中(ハイスピード動画を除く)もズームの操作ができます(48ページ)。ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、“ ”(ムービー)をタッチする前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズームは無効です(48ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。本機を置いて使用することをおすすめします。
- ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。動画撮影をはじめる前にシャッターを半押ししてピントを合わせてから撮影してください。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

■ 操作方法

1. 撮影モードにして撮影モードアイコン(31ページ)をタッチする

- 撮影モードアイコンが表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。

2. "BS"(ベストショット)をタッチする

ベストショットのシーン一覧が表示されます。

3. 撮影したいシーンをタッチする

- 画面右上に表示される"ⓘ"をタッチしてからベストショットのシーンをタッチすると、そのシーンの詳しい内容が表示されます。

4. 静止画を撮影するときはシャッターを押し、動画を撮影するときは"●"(ムービー)をタッチする

■ ベストショット撮影の注意

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- “HS夜景”でのみ、動画を撮影できます。“HS夜景”で動画画質を“HS240”に設定した場合、オート撮影モードでの動画撮影になります。
- ベストショットで撮影する場合は、静止画サイズを“12M”、“3:2”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。

解像感を高めた写真を撮影する（マルチ超解像ズーム）

超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます。倍率については49ページをご覧ください。

- この機能での撮影では、撮影可能になるまでしばらく時間がかかることがあります。

1. "撮影モード"画面の"BS"（ベストショット）をタッチする

---

2. "マルチ超解像ズーム"のシーンをタッチする

---

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に"切"になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する（HDR）

露出の異なる複数の撮影を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影（HDR撮影：ハイダイナミックレンジ撮影）できます。

1. “撮影モード”画面の“BS”（ベストショット）をタッチする

2. “HDR”のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- 本機を平らなところに置くなどして、カメラを固定させて撮影すると、より大きな効果が得られやすくなります。
- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。

デジタル処理で夜景をきれいに撮影する(HS夜景)

撮影状態をカメラが自動的に判定し、手持ち撮影と判定されたときは、1回のシャッターで連写をし、連写画像を自動的に合成してブレの少ない夜景撮影ができます。

1. "撮影モード"画面の"BS"(ベストショット)をタッチする

---

2. "HS夜景"のシーンをタッチする

---

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示してからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に"切"になります。
- 手に持って撮影する場合は連写撮影となりますので、被写体はできるだけ動かないようにしてください。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- カメラを置いて撮影しても揺れがある場合は、手持ちと判定されることがあります。
- 周囲が極端に暗い場合、露出不足により適正な明るさで撮影できないことがあります。
- この機能での撮影では、"ISO感度"は"AUTO"に固定されます。

デジタル処理で手ブレ補正をする(HS手ブレ補正)

1回シャッターを押すと連写をし、連写した画像を自動的に合成することで、手ブレが軽減された撮影ができます。

1. "撮影モード"画面の"BS"(ベストショット)をタッチする

2. "HS手ブレ補正"のシーンをタッチする

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、"処理中です　しばらくお待ちください"とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示してからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

参考

- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に"切"になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- この機能の許容範囲以上の手ブレがあったり、被写体が動いていたりするときは、補正できずにブレた画像となることがあります。
- "ISO感度"は"AUTO"に固定されます。

良い顔の画像だけ撮影する（いち押しショット）

1回シャッターを押すと、連写した画像の中から自動的に、ブレていない画像、被写体の人物すべての目が開いている画像、被写体の人物すべてができるだけ笑顔の画像を選んで、最良の1枚を保存します。

1. “撮影モード”画面の“BS”（ベストショット）をタッチする

---

2. “いち押しショット”のシーンをタッチする

---

3. シャッターを押して撮影する

- シャッターを押したあと、“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。画面にメッセージが表示されてからは、処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。

参考

- この機能での撮影では、LEDライトは自動的に“切”になります。
- この機能での撮影では、通常より撮影範囲が狭くなります。
- 連写した画像がすべてブレた画像の場合は、ブレた画像が保存されてしまいます。
- 以下のようなときは目をつぶっているかどうかや、笑っているかどうかの認識がされませんので、笑っていない被写体の画像や、目をつぶった被写体の画像が保存されるときがあります。
  - 顔の一部、もしくは全面が、影などの影響で暗くなっている場合
  - 髪の毛が、目に被っている、もしくは接近している場合
  - 眼鏡をかけている場合
  - 顔が小さい場合
  - 顔が正面を向いていない場合
- 撮影される被写体の人数が多くなると、撮影後の処理に時間が多くかかります。

よりよい撮影のための設定

本機では、メニューを操作してさまざまな設定ができます。

撮影メニューを使う

■ メニュー画面の操作例

1. 撮影モードにして“MENU”をタッチする

メニュー画面が表示されます。

- “MENU”が表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。
- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。

2. 画面を上下にドラッグして設定したい項目を表示させる

3. 設定したい項目をタッチする

4. 画面の表示に従って内容を設定する

- “MENU”をタッチまたはシャッターを押すと、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

参考

- 撮影モードによって使用できないメニュー項目があります。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。記載の順に画面をタッチしてください。

操作手順：　撮影モードにする → MENU → タッチシャッター

画面をタッチして撮影する（タッチシャッター）

操作手順：撮影モードにする → MENU → タッチシャッター

画面をタッチして静止画を撮影することができます。

1. "入"をタッチする

2. カメラを被写体に向ける

3. 撮りたいタイミングで、画面をタッチする

ピントが合い、撮影されます。

- タッチシャッターを"入"に設定していても、シャッターを押して撮影することができます。

参考

- 撮影モードを"オート"にすると、タッチした位置にピントが合います。
- 撮影モードを"プレミアムオート"にすると、自動的にピントを合わせるべき場所にピントが合います。

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

操作手順：撮影モードにする → MENU → セルフタイマー

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

10秒	10秒後に撮影されます。
2秒	2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
切	セルフタイマー撮影は行いません。

- カウントダウン中にシャッターを押すと、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- 以下の状態の場合、メニューモードのセルフタイマーを使用できません。
  – スライドパノラマ(44ページ)
  – モーションシャッター(47ページ)
  – 液晶モニターとレンズが同じ向きにあるとき

LEDライトを使用する(LEDライト)

操作手順：撮影モードにする → MENU → LEDライト

暗い場所で撮影するときなどに使用します。被写体までの距離が遠くなると、効果が落ちます。

オート	撮影モード時に、周囲が暗いとLEDライトが自動で点灯します。
入	撮影モード時に、LEDライトが常時点灯します。
切	LEDライトは点灯しません。

重要

- 人の目に近づけて発光したり、発光部を直視しないでください。
- 被写体を画像の真ん中にして撮影されることをおすすめします。
- 広角レンズを採用しているため、中心部が明るく、周辺部分が暗くなる傾向があります。

静止画サイズを変更する（静止画サイズ）

操作手順： 撮影モードにする → MENU→ 静止画サイズ

撮影する静止画の画像サイズを設定できます。

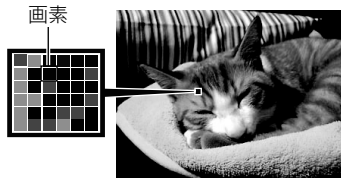
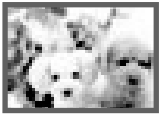
画素数（pixels）	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
12M（4000×3000）	ポスタープリント	精細な画像が得られ、パソコンなどでトリミングしても画像が粗くなりにくいです。
3:2（4000×2656）	ポスタープリント	
10M（3648×2736）	ポスタープリント	精細な画像が得られます。
5M（2560×1920）	A4プリント	
VGA（640×480）	Eメール	データ量が少ないので、Eメールに添付するのに有効です。ただし、画像は粗くなります。

- お買い上げいただいたときは、12M（1200万画素・pixels）で撮影するように設定されています。
- 3:2を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率（3:2）に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください（印刷解像度が200dpiの場合）。

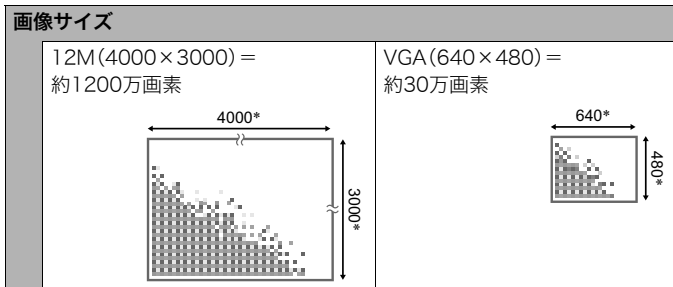
• 一部機能では静止画サイズの制限があります。

12M、3:2	撮影モードをHDRアートまたはベストショット（いち押しショット除く）に設定した場合は選択できません。他のモードで“12M”を選んでいた場合は、これらのモードに切り替えると“10M”になります。
10M	撮影モードをHDRアートまたはベストショット（いち押しショット除く）に設定した場合に選択できます。他のモードに切り替えると“12M”になります。

■ 画素について

デジタルカメラの画像は、小さな点（画素・pixels）の集まりでできています。
画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ（L版）へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。

■ 画像サイズについて

その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。

画像サイズ

12M（4000×3000）＝ 約1200万画素	VGA（640×480）＝ 約30万画素

＊単位：画素

サイズを決める目安

画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

画素数が多い画像	精細だがデータ量が多くなる （ポスター用紙などに大きく印刷する場合などに適している）
画素数が少ない画像	粗いがデータ量は少ない （Eメールで画像を送る場合などに適している）

- 静止画サイズと保存できる枚数→146ページ

動画の画質を設定する（動画画質）

操作手順： 撮影モードにする → MENU → 動画画質

動画の画質と撮影方法を設定することができます。詳しくは51ページをご覧ください。

明るさを補正する(EVシフト)

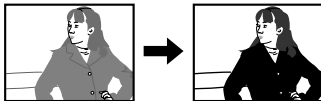
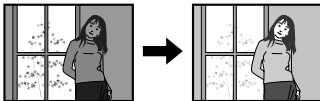
操作手順: 撮影モードにする → MENU → EVシフト

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

- 露出補正値:−2.0EV〜+2.0EV
- 補正単位:1/3EV

1. 設定したい値をタッチする

- 露出補正値を元に戻したいときは、"0.0"に設定してください。

−方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。

+方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。

2. "OK"をタッチする

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は"0.0"に戻ります。

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

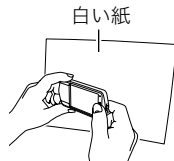
色合いを調整する(ホワイトバランス)

操作手順： 撮影モードにする → MENU → ホワイトバランス

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 設定したい撮影条件をタッチする

タッチした撮影条件を、液晶モニターで確認できます。

Autoオート WB	自動的にホワイトバランスを調整
太陽光	晴天時の野外での撮影用
曇天	薄雲〜雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰	晴天時のビルや木の陰などの撮影用
昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球	電球の雰囲気を消した撮影用
MWBマニュアルWB	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ① "MWBマニュアルWB"をタッチする ② 撮影場所で画面全体に白い紙を写す ③ アイコンが表示されていない部分をタッチする 白い紙 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

- “Autoオート WB”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

2. “OK”をタッチする

ISO感度を変える（ISO感度）

操作手順： 撮影モードにする → MENU → ISO感度

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

AUTO	撮影条件により自動調整します。		
ISO 100	感度が低い	シャッター速度が遅い	なめらかに撮れる（ノイズが減る）
ISO 200	↑	↑	↑
ISO 400	↓	↓	↓
ISO 800			
ISO 1600		シャッター速度が速い	多少ざらつく
ISO 3200	感度が高い	（暗い場所での撮影向き）	（ノイズが増える）

- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズが多少増えます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間は操作しないでください。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → フォーカス方式

フォーカス方式を変えると、より確実にピントを合わせることができます。

設定項目	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
		静止画	動画	静止画	動画
オートフォーカス	一般的な撮影	自動	固定焦点	約8cm〜∞(無限遠)	約46cm〜∞(無限遠)
マクロ	近くのものを撮影	自動		約8cm〜約50cm	約17cm〜約27cm
パンフォーカス	比較的広い範囲にピントが合うように撮影	固定焦点		距離固定※2	約46cm〜∞(無限遠)
無限遠	景色などの遠景の撮影	固定		無限遠	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。
※2 撮影条件により距離が異なります。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

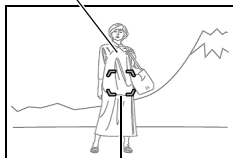
---

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす

---

3. シャッターを最後まで押し込む

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。
- タッチシャッターが“入”のときは、フォーカスフレームは表示されません。

撮影直後の画像を表示する(撮影レビュー)

操作手順: 撮影モードにする → MENU → 撮影レビュー

“入”にすると、撮影直後の画像が約1秒間表示されます。

- 絞り値、シャッター速度、ISO感度は、AE(自動露出)が適正でない場合、各値がオレンジ色で表示されます。

静止画や動画を再生する

撮影した静止画を見る

操作方法については35ページを参照してください。

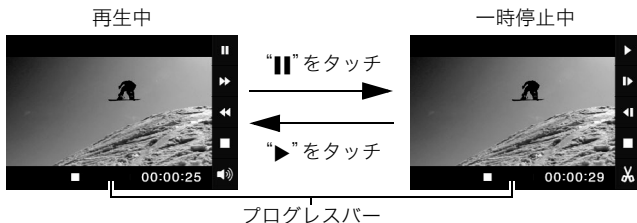
撮影した動画を見る

1. “▶”(再生)をタッチして、再生モードにする

- “▶”(しおり)をタッチして表示される“▶”(再生)をタッチして、再生モードに切り替えることもできます。

2. “<”“>”をタッチ、または画像を左右にドラッグして、再生したい動画(ムービー)を表示させる

- “<”“>”をタッチし続けると、画像を早送りできます。

3. “▶”(動画再生)をタッチして、再生を始める

動画の再生中にできること

一時停止／再生する	“❚❚”／“▶”をタッチします。
早送り／早戻しする	再生中に“◀◀”／“▶▶”をタッチします。 • タッチするごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。 • 通常の再生に戻るときは“▶”をタッチします。
再生をやめる	再生中に“■”をタッチします。
音量を調節する	再生中に“🔊”をタッチして、ボリュームバーのつまみをドラッグします。 • 音量調節は、再生中にだけできます。
コマ送りする	一時停止中に“❚▶”／“◀❚”をタッチします。 • タッチし続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり／なしを切り替える	画面をタッチします。
動画をカットする	カットしたい位置で一時停止し、“✂”をタッチします（74ページ）。

• このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

動画をカットする(ムービーカット)

動画の一部をカット(削除)できます。

1. 再生モードにして、カットしたい動画を再生する

2. カットしたい位置で“❚❚”をタッチして、一時停止する

3. “✂”をタッチする

4. カットしたい範囲をタッチする

前をカット	最初から選択した場面の前までをカットします。
後をカット	選択した場面から最後までをカットします。

5. “カット”をタッチする

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です　しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはできません。

撮影したパノラマ画像を見る

1. "▶"(再生)をタッチして、再生モードにする

2. "<"">"をタッチ、または画面を左右にドラッグして、再生したいパノラマ画像を表示させる

- タッチし続けると、早送りができます。

3. "▶"をタッチして、パノラマ画像を再生する

パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。

再生中にできること

一時停止／再生する	“❚❚”／“▶”をタッチします。
再生をやめる	再生中に“■”をタッチします。
表示位置を移動する	一時停止中に画面をドラッグします。
情報表示のあり／なしを切り替える	画面をタッチします。

- パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
  ムービーカット、回転表示

自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

すべての画像を自動的にページ送りして表示することができます。

1. 再生モードにして、"[icon]"をタッチする

スライドショーが開始されます。

- "[icon]"が表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。

参考

- 画面の切り替わり中は操作できません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。
- 通常表示(1枚表示)に戻す場合は、画面をタッチしてください。

画像を一覧表示する

複数の画像を一度に表示できます。

1. 再生モードにして、"[icon]"をタッチする

画像が一覧表示されます。

- "∧""∨"をタッチ、または画面を上下にドラッグすると、前後の画像を表示します。
- 通常表示(1枚表示)で見たいときは、見たい画像または"▭"をタッチしてください。
- 動画は先頭の画像が表示されます。

画像を拡大して表示する

静止画やパノラマ画像を8倍まで拡大して表示できます。

- 画像のサイズによっては、拡大できる倍率が異なる場合があります。

1. 再生モードにして“<”“>”をタッチ、または画面を左右にドラッグして再生したい画像を表示させる

---

2. 2本の指でタッチしながら指を広げる（18ページ）

画像が拡大表示されます。

- 画面をドラッグして、拡大表示される位置を変えることができます。
- 2本の指でタッチしながら指を狭めると、縮小表示されます（18ページ）。
  - 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 拡大中に“<”“>”をタッチすると、静止画拡大倍率を保ったまま、次の画像を見ることができます。
- 通常表示（1枚表示）に戻す場合は、“□”をタッチしてください。

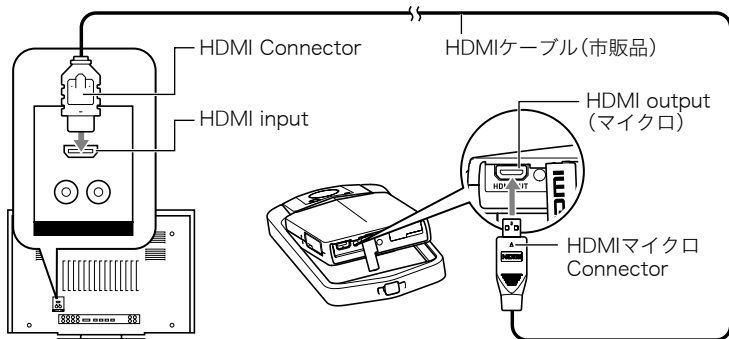
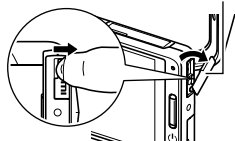
テレビで静止画や動画を見る

市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぎます。

- HDMIケーブル(市販品)は右記のロゴのあるものをお使いください。

1. フレームを開く(13ページ)

2. HDMI端子カバーのくぼみに爪を掛けて、矢印の方向に開ける

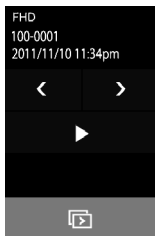
3. カメラの電源を切り、市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ

- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。

4. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

5. カメラの電源を入れる

カメラの画面にはリモコン画面が、テレビの画面には画像が表示されます。

- リモコン画面の内容は、テレビに表示している画像の種類によって変わります。

6. カメラの画面をタッチして操作する

参考

- カメラ本体側はHDMIマイクロConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- カメラ本体と接続機器のHDMI output(出力端子)同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- USB端子とHDMI output(出力端子)の両方にケーブルが差し込まれている場合は、HDMI output(出力端子)を優先に出力します。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。
- 音声はモノラルになります。
- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。
- デジタルビデオ信号の形式を変更したい場合は、121ページをご覧ください。

再生時のその他の機能(再生機能)

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

再生メニューを使う

■ メニュー画面の操作例

1. 再生モードにして"MENU"をタッチする

メニュー画面が表示されます。

- "MENU"が表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。
- メニューの内容は、撮影モードと再生モードで異なります。

2. 設定したい項目をタッチする

3. 画面の表示に従って内容を設定する

- "MENU"をタッチすると、メニュー操作を中断し、メニューを消します。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。記載の順にアイコンをタッチしてください。

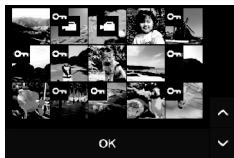
操作手順: 再生モードにする → MENU → プロテクト

ファイルを消去できないようにする（プロテクト）

操作手順：再生モードにする → MENU → プロテクト

撮影した画像を消去できないようにすることができます。

• プロテクトがかかった画像には、“ ”が表示されます。

全ファイルオン	すべてのファイルにプロテクトをかけます。
全ファイルオフ	すべてのファイルのプロテクトを解除します。
選択	ファイルごとにプロテクトをかけます。 ① “∧” “∨”をタッチ、または画面を上下にドラッグしてプロテクトをかけたい画像を表示する ② 画像をタッチして“ ”を表示させる 手順①、②を繰り返して同時に複数のファイルにプロテクトをかけることができます。 ③ “OK”をタッチする プロテクトを解除するには、手順②で画像をタッチして“ ”を消してください。

重要

• プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作（121ページ）を行うと、消去されてしまいます。

画像を回転させる（回転表示）

操作手順：再生モードにする → MENU → 回転表示

1. “<”“>”をタッチまたは画面を左右にドラッグして、回転したい画像を表示させる

---

2. “回転”をタッチする

“回転”をタッチするごとに、90°左回りに回転します。

---

3. 希望の表示状態になったら“‹”をタッチする

参考

- パノラマ画像は回転できません。
- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。

プリント（印刷）する

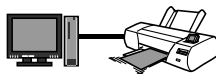
お店で　プリントする

画像が入ったメモリーカードを、**プリントサービスのお店**に持参してプリントします。

プリンターで　プリントする

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。

パソコンを使って　プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。

パソコンを使って印刷する

パソコンに保存した画像を印刷する方法はさまざまですが、ここでは、一般的な印刷方法を説明します。

■ Windowsの場合

1. 「画像をパソコンに保存する／パソコンで見る」(89ページ)に従って、画像をパソコンに保存して、印刷したい画像を表示する

---

2. Windows XP:“ファイル”→“印刷”の順でクリックする
Windows 7／Windows Vista:“印刷”→“印刷”の順でクリックする

---

3. 印刷内容を設定して、印刷する

Windows XP:印刷ウィザードが表示されます。画面に従って印刷内容を設定して印刷してください。
Windows 7／Windows Vista:印刷内容を設定し、“印刷”をクリックしてください。

■ Machintoshの場合

1. 「画像をパソコンに保存する／パソコンで見る」(104ページ)に従って、画像をパソコンに保存して、印刷したい画像を表示する

---

2. “ファイル”→“プリント”の順でクリックする

---

3. 印刷内容を設定して、“プリント”をクリックする

選択した画像が印刷されます。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像を保存して見る	• 手動でパソコンに保存して見ることができます(USB接続)(89、104ページ)。 • カメラで指定した画像をオンラインサービスにアップロードすることができます(CASIO Connection powered by Eye-Fi※)(100ページ)。 • 無線LAN経由で自動的にパソコンに転送して見ることができます(Eye-Fi)(110ページ)。
パソコンに保存した画像をカメラに戻す	画像以外にも、パソコンに表示されている画面をカメラに転送できます(Photo Transport※)(95ページ)。
動画を再生・編集する	• 動画を再生することができます(94、108ページ)。 • 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。
画像を絵画風にする	画像を絵画風に変換して楽しむことができます(Virtual Painter 5 LE for CASIO※)(98ページ)。

※Windows専用です。

カメラとパソコン、付属のソフトを使ってできることや操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」(87ページ)
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」(104ページ)

Windowsパソコンを利用する

OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)	インストールする必要はありません。	89
動画の再生	Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)	QuickTime 7で再生することができます。 • 必要に応じて、ダウンロードしてご利用ください。	94
動画の編集	Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)	ー • 必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。	ー
カメラへの画像の転送	Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)	Photo Transport 1.0※	95
画像の絵画風変換	Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)	Virtual Painter 5 LE for CASIO※	98
画像をオンラインサービスにアップロード	Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)	CASIO Connection powered by Eye-Fi	100

※Photo Transport、およびVirtual Painter 5 LE for CASIOは、64bitのWindows OSには対応していません。

■ 同梱ソフト使用時の動作環境について

使用するソフトによって、パソコンに必要な動作環境が異なります。各ソフトをインストールするときに"お読みください"を読んでご確認ください。「同梱ソフト使用時の動作環境について（Windows用）（137ページ）」にもまとめて記載しています。

■ 英語版のソフトを利用するときは

- CD-ROMから英語のソフトをインストールしてください。ただし、日本語版と英語版を2重インストールしないでください。
- 英語版のソフトをインストールするときは、CD-ROMをパソコンにセットして、MENU画面が表示されたら、"Language"の"English"をクリックします。

■ 同梱ソフトをWindowsで使用する場合のご注意

- 同梱ソフトは、管理者（Administrator）権限以外は使用できません。
- 自作パソコンでのサポートは行っていません。
- お客様のパソコン環境によっては、対応できない場合があります。

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像（静止画や動画などのファイル）をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. 【⏻】（電源）を押して、カメラの電源を切る

2. フレームを開き（13ページ）、USB端子カバーのくぼみに爪を掛けて、矢印の方向に開ける

3. 付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

カメラの電源が自動的に入り、電池の充電も始まります(22ページ)。

- パソコンの種類や接続環境により、カメラの電源が自動的に入らない場合があります。その場合は、【⏻】(電源)を押してカメラの電源を入れてください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。

USB端子
USBケーブル(付属品)
大きいコネクタ
【USB】端子
USBケーブルの接続端子の▲マークを液晶モニターの反対側にして、差し込みます。
小さいコネクタ

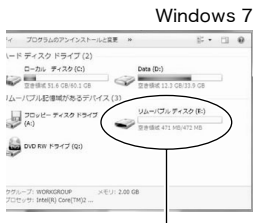
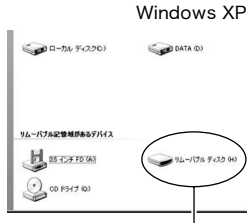
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

4. Windows 7／Windows Vista：
“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする

Windows 7

Windows XP

5. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

Windows 7

Windows XP

6. “DCIM”フォルダを右ボタンでクリックする

Windows 7　　Windows XP

7. メニューの“コピー”をクリックする

8. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

9. Windows 7：“ドキュメント”メニューで、“整理”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows Vista：“ドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows XP：“マイドキュメント”メニューで、“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が“ドキュメント”（Windows 7／Windows Vista）または“マイドキュメント”（Windows XP）フォルダにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

10. コピーが終了したらカメラをパソコンからはずす

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

DCIM

2. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」（113ページ）を参照ください。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

動画を再生する

パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ご使用のOSによっては再生できない場合があります。その際は別途ソフトをインストールする必要があります。

- 動画が再生できない場合は、下記アドレスからQuickTime 7をダウンロードし、パソコンにインストールして再生してください。
  http://www.apple.com/jp/quicktime/download/

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS：Windows 7／Windows Vista／Windows XP（SP3）
CPU：画質Full HD、HDの場合：Core 2 Duo 3.0GHz以上
画質HS240の場合：Pentium 4 2.0GHz以上
必要なソフトウェア：QuickTime 7

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
  – 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

パソコンに保存した画像をカメラに戻す

パソコンに取り込んだ画像をもう一度カメラへ戻すには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Transportをパソコンにインストールします。

■ Photo Transportをインストールする

1. CD-ROMのメニュー画面で“Photo Transport”を選ぶ

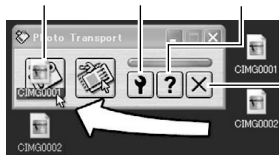
2. “お読みください”をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

■ 画像をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する(89ページ)

2. “スタート”→“すべてのプログラム”→“CASIO”→“Photo Transport”の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画像ファイルを[転送ボタン]にドラッグアンドドロップする

4. 画面の指示に従って操作する

画像ファイルがカメラに転送されます。

- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

転送するデータについて

- 転送できる画像は下記の拡張子の画像データです。
  .jpg、.jpeg、.jpe、.bmp(.bmpはJPEG画像に変換されて転送されます)
- 画像によっては一部転送できない場合があります。
- 動画は転送できません。

■ パソコンの画面をカメラに転送する

1. カメラをパソコンに接続する(89ページ)

2. "スタート"→"すべてのプログラム"→"CASIO"→"Photo Transport"の順でクリックする

Photo Transportが起動します。

3. 転送したい画面を表示する

4. [キャプチャーボタン]をクリックする

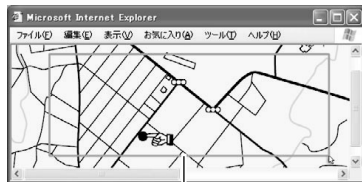
[キャプチャーボタン]

5. 転送したい範囲を囲む

転送したい部分の左上に“ ”(矢印)を移動してマウスの左ボタンを押したままにし、そのままマウスを右下へずらします。

6. 画面の指示に従って操作する

囲んだ範囲の画像がカメラに転送されます。

- キャプチャーした画像はJPEG画像に変換されて転送されます。
- 画面の指示や転送される画像の詳細はPhoto Transportの設定によって異なります。詳しくは[設定ボタン]や[ヘルプボタン]を押して設定内容を確認してください。

転送される範囲

■ 設定/ヘルプについて

設定内容の変更は[設定ボタン]をクリックして変更します。設定内容、操作方法やトラブルシューティングについては、Photo Transportの[ヘルプボタン]をクリックしてヘルプをご覧ください。

画像を絵画風にする

付属のCD-ROMに収録されているVirtual Painter 5 LE for CASIOをパソコンにインストールすると、撮影した画像を手描きの絵画風タッチに変換することができます。水彩、油彩、色鉛筆、パステルの4種類が選べ、仮想画家(バーチャルペインター)達が世界にただ一つの作品を描いてくれます。

- 協力:梅村高ソフトウェアデザイン(有)

■ Virtual Painter 5 LE for CASIOをインストールする

1. CD-ROMのメニュー画面で"Virtual Painter 5 LE for CASIO"を選ぶ

---

2. "お読みください"をクリックしてインストールの条件や動作環境を読んだ後、インストールする

インストール中にシリアル番号を確認してきたときは、「11-08-900006-deeNEe」と入力してください。

重要

- シリアル番号を入力するときは、下記の点にご注意ください。
  - シリアル番号は半角で入力してください。
  - アルファベットは大文字小文字に注意してください。

■ 画像を絵画風に変換する

1. "スタート"→"すべてのプログラム"→"Virtual Painter 5 LE for CASIO"の順でクリックする

Virtual Painter 5 LE for CASIOが起動します。

2. ツールバーの[ファイル]－[開く]をクリックし、絵画風に変換したい画像ファイルを選ぶ

- フォルダのアイコンをクリックしても選ぶことができます。

3. ツールバーの[仮想画家]またはキャンパスのアイコンをクリックし、絵画風に変換する

詳しくはVirtual Painterの[ヘルプボタン]をクリックして、ヘルプをご覧ください。

重要

- 本ソフトは、カシオのデジタルカメラ(EXILIMシリーズ)で撮影した画像(JPEG画像)のみに対応しております。他社のカメラの画像は、変換処理できません。
- 絵画風に変換した画像を保存するときは、必ず「名前を付けて保存」するかファイル名を変更して保存するようにしてください。「上書き保存」すると、オリジナルの画像は消えてしまいますので、ご注意ください。

画像データをオンラインサービスにアップロードする

カメラをパソコンに接続してCASIO Connection powered by Eye-Fiをパソコンにインストールすると、画像データ(静止画や動画)を各社のオンラインサービスにアップロードすることができます。

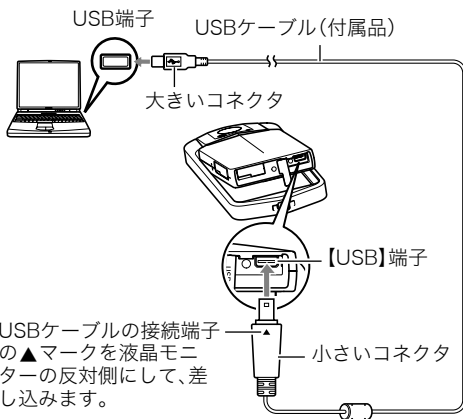
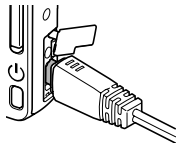
■ CASIO Connection powered by Eye-Fiをインストールする

1. パソコンの電源を入れ、インターネットに接続しておく

- インターネットに接続されていないパソコンでは、インストールできません。

2. カメラの電源を切り、メモリーカードを抜く(135ページ)

3. 付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。

4. Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピュータ”の順でクリックする
Windows XP：“スタート”→“マイコンピュータ”の順でクリックする

5. “リムーバブルディスク”を開き、“setup.exe”をダブルクリックする

CASIO Connection powered by Eye-Fiのインストーラーが起動します。

6. パソコンの画面に従ってインストールする

7. パソコンの画面に従ってCASIO Connection powered by Eye-Fiにユーザー登録したのち、ログインする

8. 画像データをアップロードしたいオンラインサービスを設定する

EX-TR100カメラアイコンの右側に表示されるアイコンをクリックすると、PicasaやFacebook、Flicerなどのお気に入りのオンラインサービスに、画像データをアップロードするように設定ができます。

- 詳しくは、CASIO Connection powered by Eye-Fiのヘルプをご覧ください。

9. パソコンの設定が終了したら、カメラをパソコンからはずす

重要

- カメラをフォーマットすると、カメラに収録されているCASIO Connection powered by Eye-Fiのインストーラーも消去されます。消去された場合は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）内のサポートページをご覧ください。
- ユーザー登録情報は大切な情報ですので、忘れないようにメモなどに残しておいてください。

■ カメラの画像データを指定したオンラインサービスにアップロードする

1. カメラの電源を入れる

- カメラをパソコンに接続している場合は、USBケーブルをカメラから抜いてください。

---

2. 再生モードにして“[icon]”をタッチする

---

3. “∧”“∨”をタッチ、または画面を上下にドラッグして、アップロードしたい画像を表示させる

---

4. 画像をタッチしてチェックを入れる

- 他の画像をアップロードする場合は、手順3〜4を繰り返してください。

---

5. アップロードしたい画像を選んだら、“OK”をタッチする

---

6. “終了”をタッチする

---

7. カメラの電源を切り、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する

CASIO Connection powered by Eye-Fi が自動的に起動し、選択した画像データ（静止画や動画）が設定したオンラインサービスにアップロードされます。

- 画像データをアップロード中は、後面ランプが点滅します。点滅が終わってから、USBケーブルをカメラから抜いてください。

重要

- 画像データアップロード中、オートパワーオフ機能は作動しません。
- 多数の画像データをアップロードすると、アップロードに時間がかかる場合があります。
- Eye-Fiカードを本機に入れた状態では、アップロードしたい画像の選択はできません。
  また、パソコンと接続しても、CASIO Connection powered by Eye-Fiは起動しません。
- 提供されるサービスは途中予告なしで終了されることがあります。
- ご利用の環境によっては、接続されない状況が発生する場合があります。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録をすることができます。

- 下記のアドレスからユーザー登録ができます。
  http://casio.jp/reg/dc/

ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。
下記の方法でも登録できます。

1. CD-ROMのメニュー画面で“オンラインユーザ登録”を選んだ後、画面の指示に従って操作する

2. ユーザー登録が終了したら、インターネットの接続を終了する

Macintoshを利用する

Mac OSのバージョンおよび使用目的に応じて、必要なソフトをインストールしてください。

使用目的	OSのバージョン	インストールするソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS 9	インストールする必要はありません。	104
	OS X		
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	OS 9	市販のソフトをご利用ください。	108
	OS X	一部のMac製品本体にバンドルされているiPhotoが利用できます。	
動画の再生	OS 9	再生できません。	108
	OS X	OS X 10.4.11以降で、QuickTime 7以降がインストールされていれば再生できます。	

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

重要

- Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X（10.1、10.2、10.3、10.4、10.5、10.6）のみで使用できます（OS標準のUSBドライバを使用）。

参考

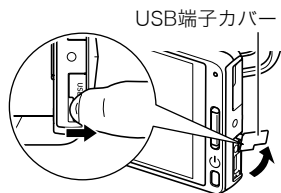
- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

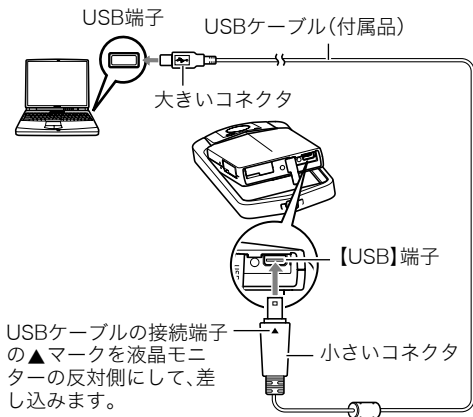
1. 【⏻】(電源)を押して、カメラの電源を切る

---

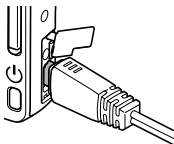
2. フレームを開き(13ページ)、USB端子カバーのくぼみに爪を掛けて、矢印の方向に開ける

---

3. 付属のUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

カメラの電源が自動的に入り、電池の充電も始まります(22ページ)。

- パソコンの種類や接続環境により、カメラの電源が自動的に入らない場合があります。その場合は、【⏻】(電源)を押してカメラの電源を入れてください。

- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USBケーブル接続時は、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせてください。
- USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

---

4. 表示されたドライブをダブルクリックする

パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

---

5. "DCIM"フォルダをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

---

6. コピーが終了したらドライブを"取り出し"または"ゴミ箱"へドラッグアンドドロップする

---

7. カメラをパソコンからはずす

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

---

2. “DCIM”フォルダをダブルクリックして、フォルダを開く

---

3. 見たい画像が入ったフォルダをダブルクリックして開く

---

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」（113ページ）を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

パソコンに自動的に画像を保存する／画像を管理する

Mac OS Xをお使いの場合は、一部のMac製品本体にバンドルされているiPhotoを使って画像ファイルの管理ができます(Mac OS 9等をお使いの場合は、市販のソフトをご利用ください)。

動画を再生する

動画はMacintoshにすでにインストールされているQuickTimeで再生することができます。Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS：画質Full HDの場合：Mac OS X 10.4.11以降
画質HD、HS240の場合：Mac OS X 10.3.9以降
必要なソフトウェア：QuickTime 7以降

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。
- OS 9では動画ファイルは再生できません。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

– 最新のQuickTimeにバージョンアップする
– 実行中の他のソフトウェアを終了する

重要

- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録をすることができます。

- 下記のアドレスからユーザー登録ができます。
  http://casio.jp/reg/dc/

ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としています。

無線LAN内蔵SDメモリーカード（Eye-Fiカード）を使って画像を転送する（Eye-Fi）

市販のEye-Fiカードをカメラに入れて撮影すると、無線LAN経由で画像データを自動的にパソコンなどに転送することができます。

1. Eye-Fiカードに付属の取扱説明書に従って、Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

---

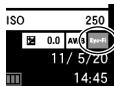
2. 設定の終了したEye-Fiカードをカメラに入れ、撮影する

撮影した画像が、無線LANにより自動的にパソコンなどに送信されます。

- 具体的な使用方法は、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書を参照ください。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内に書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコン上にコピーしてからフォーマットしてください。

重要

- 撮影した画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fiカードによる通信を切ってください(115ページ)。
- Eye-Fiカードをカメラに入れ、Eye-Fiの設定を“入”にした状態で、画面の表示をステータス表示あり(124ページ)にすると、画面上にEye-Fiアイコンが表示されます。

- 画像転送中、オートパワーオフ機能は作動しません。
- 画像転送中に電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されます。その場合は、メッセージに対応した処置をしてください(144ページ)。
- 多数の画像データを転送すると、転送に時間がかかる場合があります。
- Eye-Fiカードの種類、設定によっては、画像データ転送後、Eye-Fiカードに保存された画像データは消去されてしまいます。
- Eye-Fiカードで動画を撮影すると、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。
- カメラの設定や電池の電圧、環境によって、Eye-Fiカードが正しく通信できない場合があります。

ファイルとフォルダについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダ」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダ構造の詳細は、「メモリー内のフォルダ構造」(113ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	"CIMG0001"から"CIMG9999"までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 連番(4桁)：0026　拡張子：JPG
フォルダ	"100CASIO"から"999CASIO"までで、最大900のフォルダが作成されます。	連番100のフォルダ名: 100CASIO 連番(3桁)：100

- フォルダ名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、9ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

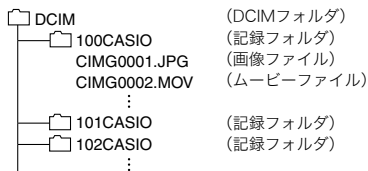
メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像は、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
- DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。

ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダ構造

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が113ページのフォルダ構造のとおりである必要があります。
- メモリーカードはPCカードアダプターやメモリーカードリーダー／ライターで直接パソコンに読み込むことができます。

その他の設定について

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作については、61ページをご覧ください。

液晶モニターの明るさを変える（液晶設定）

操作手順：MENU → セットアップ → 液晶設定

液晶モニターの明るさを切り替えることができます。

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	"+1"に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。"0"に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
−1	周囲へのマナーに配慮したり、暗い場所で使用する場合の設定です。

Eye-Fiカードによる通信を切る（Eye-Fi）

操作手順：MENU → セットアップ → Eye-Fi

Eye-Fiカードを使った通信（110ページ）を完全に切りたいときは"切"にしてください。

カメラの音を設定する(操作音)

操作手順：MENU → セットアップ → 操作音

<table>
<tr><td colspan="2">起動音</td><td rowspan="4">操作音の入／切を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ハーフシャッター</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャッター</td></tr>
<tr><td colspan="2">操作音</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音量</td><td>操作音量</td><td>操作音量を設定します。HDMI出力時(79ページ)の音量にも反映されます。</td></tr>
<tr><td>再生音量</td><td>動画の再生音量を設定します。HDMI出力時(79ページ)の音量にも反映されます。</td></tr>
</table>

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順：MENU → セットアップ → タイムスタンプ

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2012年7月10日 午後1時25分

日付	2012/7/10
日付＋時刻	2012/7/10 1:25pm
切	日付／時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消したりすることはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくても、印刷用ソフトで日付や時刻を入れてプリントすることができます。
- 写し込む内容は、日時設定(118ページ)と表示スタイルの設定(119ページ)に従って写し込みます。

海外旅行先での時刻を設定する（ワールドタイム）

操作手順： MENU → セットアップ → ワールドタイム

海外旅行先を設定する

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。

1. "訪問先"をタッチする
- 通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは"自宅"を選びます。

---

2. "都市"をタッチする
- サマータイムを設定するときは、"サマータイム"を選び、"入"に設定します（サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです）。

---

3. 画面を上下にドラッグして訪問先のエリアを表示して、"OK"をタッチする

---

4. 画面を上下にドラッグして都市を選び、タッチする

重要

- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で"自宅"を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください（118ページ）。

表示する時刻を選ぶ

カメラに表示する時刻を自宅または訪問先に設定します。

1. “時刻表示”をタッチする

2. “自宅”または“訪問先”をタッチする

タッチした地域の時刻に設定されます。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

操作手順：MENU → セットアップ → 日時設定

日時を変更できます。

1. 変更したい値(年、月、日、時、分)をタッチする

2. “▲”“▼”をタッチして、日時を合わせる

- 入力できる日付は、2001年～2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(117ページ)を自分の住んでいる地域にしないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。
- 12時間／24時間表示を切り替えるには、時間表示切替アイコンをタッチします。
- “▲”“▼”をタッチし続けると、早送りできます。

時間表示切替

3. “OK”をタッチする

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

操作手順：MENU → セットアップ → 表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例)2012年7月10日

年／月／日	12/7/10
日／月／年	10/7/12
月／日／年	7/10/12

表示言語を切り替える(Language)

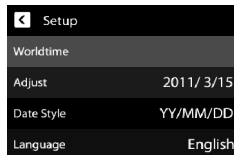
操作手順：MENU → セットアップ(Setup) → Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

1. メニュー画面の“Setup”をタッチする

2. “Language”をタッチする

3. 画面を上下にドラッグして“日本語”を表示させ、タッチする

タッチパネルの反応位置を調整する（タッチ位置調整）

操作手順：MENU → セットアップ → タッチ位置調整

タッチしたものと違うものが選択されたり、タッチパネルの反応が悪い場合は、タッチパネルの反応位置を調整してください。

1. "開始"をタッチする

---

2. 画面に順番に表示される"＋"をゆっくりとタッチする（4箇所）

"完了しました"と表示したのち、タッチ位置が調整されます。

- "＋"をタッチするときは、"＋"の中心を正確にタッチするようにしてください。
- タッチ位置調整は、カメラを通常撮影時のように持って行ってください（15ページ）。

HDMI端子の出力方法を変える（HDMI）

操作手順：MENU → セットアップ → HDMI

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式を変更できます。

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。※
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※1080iは、1080 60iに対応していますが、1080 50iには対応していません。そのため、1080iの60iに対応していないPAL受信地域でのデジタルTVをご使用の際には、576p出力となる場合があります。PAL受信地域で、オートで表示されない場合は、576pに設定を変更してください。

- “オート”でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。

メモリーをフォーマットする（フォーマット）

操作手順：MENU → セットアップ → フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーやメモリーカードをフォーマットした場合、フォーマットしたメモリー内のプロテクトされた画像も同時に消去されます。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、カメラに収録されているCASIO Connection powered by Eye-Fiのインストーラーも消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量が十分にあることを確認してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す（リセット）

操作手順：MENU → セットアップ → リセット

購入直後の設定（初期値）については、138ページを参照ください。

下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。

ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language、HDMI出力

液晶モニターの表示を設定する

表示の向きを設定する

本機は、カメラを構えた向きを自動的に判断して、アイコンの向きや撮影される画像の向きを設定しています。しかし、カメラを下へ向けて水平に構えて撮影したりすると、カメラの向きを正常に判断できない場合があります。その場合は、手動で向きを設定することで、アイコンの向きや撮影される画像の向きを正しく合わせることができます。表示の向きは、再度設定を変更する、またはカメラの電源を切るまで保持されます。

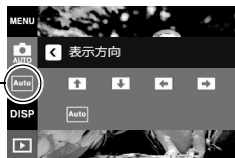
1. 撮影モードにする

2. 表示方向アイコンをタッチする

- 表示方向アイコンが表示されていない場合は、“▶”（しおり）をタッチして表示させてください。

表示方向アイコン

3. 設定したい表示方向のアイコンをタッチする

- アイコンの向きや撮影される画像の向きが設定されます。

Auto	本機の向きを感知して、自動で表示方向が変更されます。
↑	上向きで固定します。
←	左を上にして固定します。
↓	下を上にして固定します。
→	右を上にして固定します。

液晶モニターに表示される内容を選ぶ(DISP)

"DISP"をタッチするごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。

- "DISP"が表示されていない場合は、"▶"(しおり)をタッチして表示させてください。
- 動画撮影時は情報表示の切り替えはできません。

情報表示なし	画面には何も表示されません。
情報表示あり	設定内容の情報などが表示されます。
ステータス表示あり	より詳しい設定内容の情報が表示されます。 • ステータス表示ありの場合は、液晶モニターで被写体を確認することはできません。

付録

使用上のご注意

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

– カメラの動作中にメモリーカードを抜いた
– 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態でメモリーカードを抜いた
– 通信中にUSBケーブルがはずれた
– その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(144ページ)。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

- 使用可能温度範囲:0〜40℃
- 使用可能湿度範囲:10〜85%(結露しないこと)
- 次のような場所には置かないでください。
  – 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
  – 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  – 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き（結露）、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性（歪曲収差）により、撮影した画像の直線が歪む（曲がる）場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面には触れないでください。レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ USB-ACアダプターご使用時のご注意

- ●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●電源ケーブルのコードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
- ●電源ケーブルのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●濡れた手で電源ケーブルのコードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
- ●万一、電源ケーブルのコードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、「修理に関するお問い合わせ窓口（157ページ）」またはお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、電源ケーブルをコンセントからはずしてください。
- USB-ACアダプターの上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

　この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Vista、Windows 7、およびDirectXは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、およびiPhotoは、Apple Inc.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- Eye-Fi、Eye-FiロゴおよびEye-Fi *connected* は、Eye-Fi, Inc. の商標です。
- EXILIM、Photo Transport、Virtual Painter 5 LE for CASIO、およびCASIO Connection powered by Eye-Fiは、カシオ計算機(株)の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に付属するソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは、以下のいずれかの場合により充電できないことを示しています。説明に従って処置したあとに、再度充電してください。

周辺温度または電池の温度が、高温または低温状態である場合

USBケーブルを抜いて常温でしばらく放置したあと、周囲の温度が5℃〜35℃の温度範囲で充電を再開してください。

タイマーが働いた場合

電池の未使用期間が長期化した場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びる場合があります。充電時間が最大6時間を越えると、タイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。
また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約45分で充電を停止することもあります。

1) 長期間充電しなかった場合
USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開してください。
2) パソコンで充電する際、接続環境によって十分な電力を供給できない場合
500mA程度の電流供給ができるUSBポートに直接差し込んでください。

パソコンの給電能力については、ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください。
USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開することもできますが、給電能力が低いパソコンの場合は、この動作を繰り返さないとフル充電にならない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる場合は、電池の不良が考えられます。「修理に関するお問い合わせ窓口（157ページ）」にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 5℃～35℃の温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 過放電を防止するために、充電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電してから保管してください。

電池を交換するときは

- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しい電池と交換してください。電池の交換については、「修理に関するお問い合わせ窓口（157ページ）」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、電池をご自分で交換することはできません。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプターはAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によって電源ケーブルのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

カメラを廃棄するときは

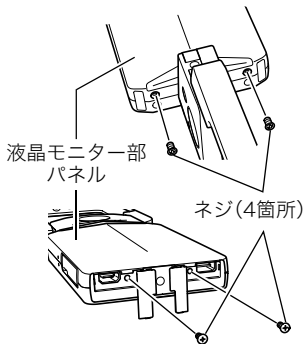
本機を廃棄する場合は、カメラに内蔵のリチウムイオン充電池を取り出してリサイクルしてください。

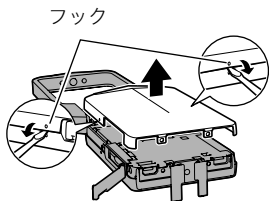
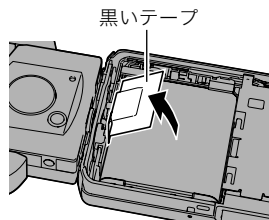
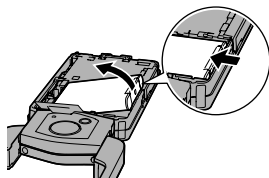
重要

- 本機の電池はご自分で交換できません。電池を交換したい場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(157ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
- 電池をはずすときは、本機の電源を切ってください。
- 電池をカメラから取り出すときに、パネルの縁で手を切らないようにご注意ください。

1. 本機の電源を切る

2. 本機のフレームを開き、液晶モニター部を90度回転する

3. プラスの精密ドライバーを使って、液晶モニター部パネルのネジを4箇所はずす

4. メモリーカード挿入部のカバーを開く

5. マイナスの精密ドライバーなどを使って、フックをはずしながら、液晶モニター部のパネルを矢印の方向に持ち上げてはずす

6. 黒いテープを電池からはがす

7. 電池の端を矢印の方向に押しながら、電池を持ち上げながら取り出す

■ 充電式電池の取り扱いについて（リサイクルのお願い）

Li-ion 00

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

＜最寄りのリサイクル協力店へ＞

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.com/

■ 使用済み充電式電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については27ページをご覧ください。

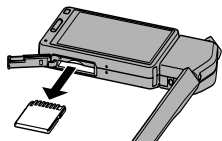
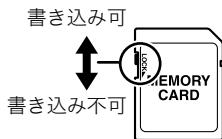
メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。

- 後面ランプが緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

■ メモリーカードについて

書き込み可

書き込み不可

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作（121ページ）で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電気的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア（CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にバックアップして控えをとることをおすすめします。

■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位(Full HD、HD)の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、ムービーアイコンが黄色になります。メモリーカードは、最大転送速度が10MB/秒以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動作確認済みのメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト内のお客様サポートメニューの「その他サポート情報」にある「他社製SDメモリーカード/マルチメディアカード動作確認一覧」をご覧ください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄/譲渡するときのご注意

- 本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。
  - 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
  - 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

  また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(121ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。
- CASIO Connection powered by Eye-Fiをお使いの方で、カメラ本体を譲渡する際は、CASIO Connection powered by Eye-Fiを起動し、カメラアイコンを右クリックして、“削除”を選択することにより、Eye-Fiアカウントを削除してください。

同梱ソフト使用時の動作環境について(Windows用)

使用するソフトによってパソコンに必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させるために必要な最低限の性能です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上の性能を必要とします。

Photo Transport 1.0
OS　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)
メモリー：64MB以上
HDD　：約2MB以上

Virtual Painter 5 LE for CASIO
OS　　：Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)
CPU　：Intel Pentium IIIクラス以上
メモリー：256MB以上
VIDEO　：24ビットのフルカラーディスプレイ、画面の解像度1024×768以上
- 管理者(Administrator)権限のあるユーザーでログインして、インストールしてください。

CASIO Connection powered by Eye-Fi
OS：Windows 7／Windows Vista／Windows XP(SP3)

※CASIO Connection powered by Eye-Fiは、カメラ本体に収録されています。

各ソフトの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内の「お読みください」ファイルを参照して、ご確認ください。

リセット操作でリセットされる内容

撮影モード、再生モードで表示されるメニューで、リセット操作(122ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。
ー:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- 撮影モードによって使用できないメニュー項目があります。

■ 撮影メニュー

タッチシャッター	切
セルフタイマー	切
LEDライト	切
静止画サイズ	12M
動画画質	Full HD
EVシフト	0.0

ホワイトバランス	オート
ISO感度	オート
フォーカス方式	AF
撮影レビュー	切
セットアップ	→139ページ

■ 再生メニュー

プロテクト	ー
回転表示	ー
セットアップ	→139ページ

■ セットアップメニュー

液晶設定	オート
Eye-Fi	入
操作音	起動音:入 ハーフシャッター:入 シャッター:入 操作音:入 操作音量:3 再生音量:7
タイムスタンプ	切

ワールドタイム	ー
日時設定	ー
表示スタイル	ー
Language	ー
タッチ位置調整	ー
HDMI	オート
フォーマット	ー
リセット	ー
バージョン情報	ー

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

現象	考えられる原因と対処
電源について	
電源が入らない。	1) お買い上げ直後は電池は充電されていません。充電してからご使用ください。 2) 本機の電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください（19ページ）。それでもすぐに電池が消耗するときは「修理に関するお問い合わせ窓口（157ページ）」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
電源が勝手に切れた。	1) 本機は、電源を入れたまま5分間使用しないと自動で電源が切れます。電源を入れ直してください。 2) 本機の電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください（19ページ）。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	メモリーカード挿入部付近にあるリセットボタン（7ページ）を、先が細いもので押して電源を切り、再度電源を入れてください。なお、リセット操作（122ページ）と異なり、リセットボタンを押しても設定は初期値に戻りません。
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、“[カメラアイコン]”（撮影）をタッチして撮影モードにしてください。 2) “メモリがいっぱいです”と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。

現象	考えられる原因と対処
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) 手ブレしている可能性があります。ベストショットの“手ブレ補正”で撮影するか、カメラを置くなどして固定させて撮影してください。 4) シャッターを半押しせずに撮影したとき、ピントが合わない場合があります。シャッターの半押しを確実に行ってピントを合わせてください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
LEDライトが発光しない。	1) 本機の電池が消耗している場合は、充電してください(19ページ)。 2) ベストショット、HDRアート、スライドパノラマで撮影する場合は、LEDライトが“切”になります。他の撮影モードを選んでください(41ページ)。
セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	本機の電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(19ページ)。
液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) 被写体が風景や人物なのに“マクロ”になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(70ページ)。 2) 接写しているのに、オートフォーカスや“無限遠”になっています。接写撮影をする場合は“マクロ”にしてください(70ページ)。
画像にノイズが入る。	1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 静止画撮影で高い値のISO感度に設定すると、ノイズが増えることがあります。ノイズが気になる場合は、ISO感度を低い値に設定してください。
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“ ”になったら、速やかに電池を充電してください(19ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。

現象	考えられる原因と対処
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。EVシフトを＋側に調整してください(67ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(54ページ)のシーンを「HS夜景」に設定して撮影してください。
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。EVシフトを＋側に調整してください(67ページ)。
動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(126ページ)。 3) ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押ししてピントを合わせてから撮影してください。
再生について	
再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
画像を回転できない。	次の画像は回転できません。 • パノラマ画像 • 他のカメラで撮影した画像

	現象	考えられる原因と対処
消去について		
	ファイルを消去することができない。	ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(82ページ)。
その他		
	画面に表示される日時や記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(118ページ)。
	画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(119ページ)。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 3) USBケーブルをUSBハブなどを経由してパソコンと接続すると、正常に認識しない場合があります。USBケーブルはパソコンのUSB端子に直接接続してください。
	カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(26、118ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(122ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(157ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
	電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。撮影し直してください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(121ページ)。 重要 • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(121ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。 LOCKスイッチ LOCK MEMORY CARD
画像をアップロード中です しばらくお待ちください	Eye-Fiカードにより画像データを転送中に、電源を切ろうとしたときに表示されます(110ページ)。
この機能は使用できません	機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。

このファイルを再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(36ページ)。
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。不要なファイルを消去してください(36ページ)。
レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、「修理に関するお問い合わせ窓口(157ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
ALERT	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、「修理に関するお問い合わせ窓口(157ページ)」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

静止画サイズ (pixels)	画像ファイルサイズ	内蔵メモリー (約34.8MB※1)での撮影枚数	SDメモリーカード (1GB※2)での撮影枚数
12M(4000×3000)	4.13MB	5	142
3:2(4000×2656)	3.62MB	6	169
10M(3648×2736)	3.38MB	6	169
5M(2560×1920)	1.72MB	9	266
VGA(640×480)	290KB	61	1667

動画

画質 (pixels)／(音声)	1ファイル 最大サイズ	転送レート (フレームレート)	内蔵メモリー (約34.8MB※1) での撮影時間	SDメモリーカード (1GB※2)での撮影時間	1分録画時のファイルサイズ
Full HD (1920×1080) (モノラル)	1回の撮影で 最大 4GBまで	14.2メガビット／秒 (30フレーム／秒)	18秒	8分23秒	106.5MB
HD(1280×720) (モノラル)		10.9メガビット／秒 (30フレーム／秒)	24秒	10分58秒	81.8MB
HS240 (432×320) (なし)		40.0メガビット／秒 (240フレーム／秒)	6秒	2分59秒	300.0MB

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
※2 SDメモリーカードはパナソニック(株)製のPRO HIGH SPEED SDメモリーカードの場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数は異なる場合があります。

- 撮影枚数／撮影時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ／転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- ハイスピード動画撮影時は、撮影時間と再生時間が異なります。ハイスピード動画で10秒間撮影すると、再生時間は80秒になります。
- 動画撮影時は、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。動作確認済みのメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(http://casio.jp/dc/)内のサポートページにある「サポート情報」内の「他社製SDメモリーカード／マルチメディアカード動作確認一覧」をご覧ください。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式	静止画：JPEG（Exif Ver.2.3／DCF2.0準拠） 動画：MOV形式、H.264/AVC準拠、IMA-ADPCM音声（モノラル）
記録媒体	内蔵フラッシュメモリー（画像記録エリア：34.8MB※） SD／SDHC／SDXC ※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
記録画素数	静止画：12M（4000×3000）／3：2（4000×2656）／10M（3648×2736）／5M（2560×1920）／VGA（640×480） 動画：Full HD（1920×1080 30fps）／HD（1280×720 30fps）／HS240（432×320 240fps）
消去	1ファイル単位、全ファイル一括消去可能 （メモリープロテクト機能付き）
有効画素数	1210万画素
撮像素子	サイズ：1/2.3型正方画素高速CMOS 総画素数：1275万画素
レンズ／焦点距離（静止画）	F2.8/f=3.8mm（35mmフィルム換算21mm相当） 5群5枚（非球面レンズを含む）
ズーム	超解像ズーム/デジタルズーム併用：4倍 HDズーム/超解像ズーム/デジタルズーム併用最大倍率：15.9倍(VGAサイズ)
フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス • フォーカス方式：オートフォーカス／マクロ／パンフォーカス／無限遠選択可能 • AFエリア：スポット ※ プレミアムオート選択時はインテリジェント。
撮影距離範囲（静止画）（レンズ先端から）	オートフォーカス：約8cm～∞ マクロ：約8cm～約50cm 無限遠：∞
測光方式	撮像素子によるマルチパターン測光
露出制御	プログラムAE
露出補正	－2.0EV～＋2.0EV （1/3EVステップ）
シャッター方式	CMOS電子シャッター
シャッタースピード	静止画（オート）： 1/10～1/16000秒 静止画(プレミアムオート)： 1～1/16000 秒
絞り	F2.8

ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／N昼白色／D昼光色／電球／マニュアルホワイトバランス
感度設定(標準出力感度)	静止画：オート／ISO100／ISO200／ISO400／ISO800／ISO1600／ISO3200相当 動画：オート
セルフタイマー	作動時間：約10秒、2秒、2～10秒
撮影関連機能	静止画撮影（オート撮影／プレミアムオート撮影）、超解像撮影、マクロ、セルフタイマー、ベストショット、顔検出、動画撮影（Full HD動画、HD動画、HS動画）（モノラル音声付き、HS動画は音声なし）、スライドパノラマ、モーションシャッター
画像モニター	3.0型TFTカラー液晶（高性能クリア液晶） 460,800（960×480）ドット タッチスクリーン
ファインダー	液晶モニター
時計機能	クォーツデジタル時計内蔵 日付・時刻： 画像データと同時に記録 自動カレンダー：2049年まで
ワールドタイム	世界162都市（32タイムゾーン）に対応 都市名、日付、時刻、サマータイム
外部接続端子	USB端子（Hi-Speed USB準拠、USB充電対応） HDMI output（マイクロ／TypeD）
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
電源	専用リチウムイオン充電池（内蔵）

電池寿命

下記の電池寿命は温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

項目	目安
撮影枚数(CIPA)※1	約220枚
連続再生時間(静止画)※2	約2時間10分
動画連続撮影時間(ハイスピード動画)※3	約1時間20分
動画連続撮影時間(フルハイビジョン動画)※3	約1時間10分

- 記録メディア:SDメモリーカード1GB(SDメモリーカードはパナソニック(株)製のPRO HIGH SPEED SDメモリーカードの場合です)
- 測定条件

※1 撮影枚数(CIPA)
CIPA(カメラ映像機器工業会)規準に準ずる
温度(23℃)、液晶モニターオン、10回撮影に1度電源を切/入操作

※2 連続再生時間
温度(23℃)、約10秒に1枚ページ送り

※3 動画連続撮影時間は動画を10分撮影毎に、ファイルを全消去した場合の動作時間
16GB SDHCメモリーカード使用

- 前記は、お買い上げ後初めて充電したときの数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- オートフォーカスの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

項目	仕様
消費電力	DC3.7V 約3.6W
外形寸法	幅122.8mm×高さ59.0mm×奥行き14.9mm
質量	約157g(メモリーカード含む) 約155g(メモリーカード除く)

■ USB-ACアダプター（AD-C53U）

入力電源	AC100-240V 50/60Hz 100mA
出力電源	DC5.0V 650mA
使用周囲温度	5～35℃
サイズ	幅53mm×高さ21mm×奥行き45mm（突起部含まず）
質量	約37g

別売品

- USB-ACアダプター AD-C53U
- USBケーブル EMC-6U
- ソフトケース ESC-310
- ネックストラップ ENS-2
- ネックストラップ ENS-4
- ネックストラップ ENS-5

別売品は、お買い求めの販売店、または
カシオ・オンラインショッピングサイト
（e-カシオ）にご用命ください。
e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、
カシオデジタルカメラオフィシャル
Webサイトでもご覧になることが
できます。
http://casio.jp/dc/

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ